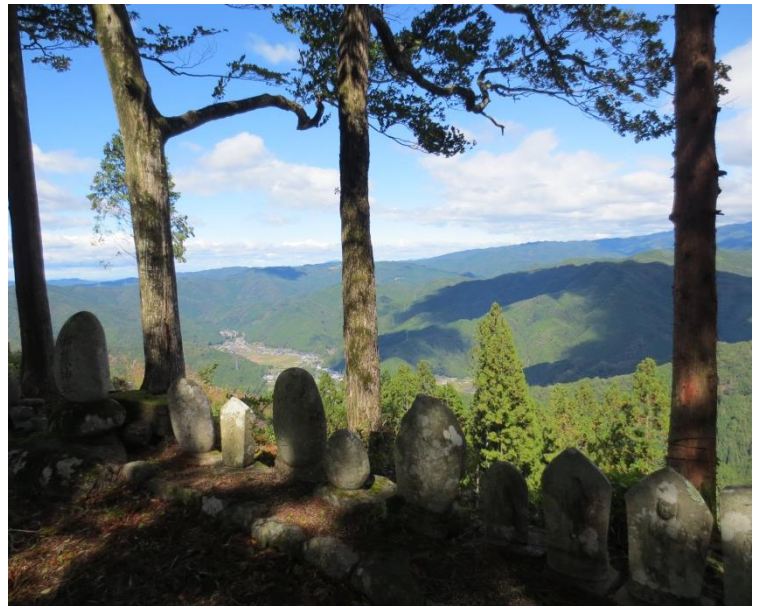


# おんたけさま（御嶽信仰）の歴史 No. 1

Mt. 押山の頂上には“御嶽神社”をはじめとする石の神仏が14体並んでいます。  
地元の人はこちらを“おんたけさま”と呼んで長年親しんできました。

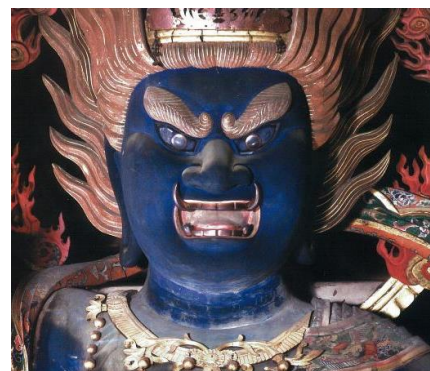
さて“おんたけさま”は木曾の御嶽山にまつわる信仰ですが、その内容はいったいどんなものだったのでしょうか？  
そこで今回、古代～明治の初めまでの御嶽信仰全体の歴史について触れてみます。



## 古代～中世

木曾御嶽山は古代から山岳信仰の対象として知られ、役小角（修験道の開祖で神通力抜群、大和大峰山を開山）・弘法大師空海・木曾義仲・武田勝頼などの宗教家や武士が登拝（登山して参拝）をしてきたと伝えられる霊場でした。  
しかし、事前に麓で75～100日の精進潔斎をしなければいけないという厳しい戒律があったため、登拝するのは道者というごく少数の人たちだけでした。当然信仰は広がらず、一時期は登拝が中絶した時期もありました。

修験道のパイオニアである役小角（えんのおづぬ＝7世紀後半）と彼が吉野金峯山で感得した蔵王権現。蔵王権現は修験道の中心となり、木曾御嶽信仰にも影響を与えた。



### 【参考】

山岳信仰＝山を靈力に満ちた神聖なものとして崇拝する信仰。ちなみにお寺が〇〇山△△寺などと山号を名乗っているのもこれに由来していることが多い。

修験道＝古来の山岳信仰と仏教が結びついてできた宗教。修行する人を修験者・山伏などと呼ぶ。

## 江戸時代の初め～中期

この時期は従来にも増して入山が制限されました。その理由は以下の通りです。

- 1) 尾張徳川家が木曾谷一帯を御留山（おとめやま）として登山を禁じた。  
これは国防および山林保護・ヒノキ材独占のため。
- 2) 御嶽神社の神官（武居家）が山の支配権＝利権を手放さなかった。

もちろんこんな調子では信仰は広まりません。

そうは言うけど・・・

だから豊かな  
森林ができた  
んだぞ！

